

月刊 新翔タイムズ

第28号
新翔タイムズ
編集室
発行・熊野新聞社

ビジネス・セミナー始まる 「郷土の特産品を生かした商品開発」

「郷土の特産品を生かした商品開発」

新宮商工会議所との連携事業



7日、2年生マーケティング選択生(20人)は、キャリア実習室で平成22年度ビジネス・コミュニケーション・セミナー事業の一環として、新宮商工会議所青年部専務理事、永野大伸さんから「事業概要説明会」と題し、最初の講義を受けた。

この事業は、「ビジネスのおもしろい、代価としてのお金を得ることの難しさ、仲間とともに働くことの大切さを知ってもらう、そこから起業家が生まれてくれたら」という思いから同青年部が富山県の実践例をヒントに昨年から取り入れた。各グループが架空の会社を設立し、最大5万円までの融資を受け、3月に行われる新宮市仲の町商店街の催しに参加する。自分たちが考えた商品やアイデアの助言を得



力が入った応援合戦

3年生が団結力を発揮

9月30日に予定されていた第4回新翔体育祭は、当日の悪天候のため翌日の10月1日に開催された。前日とは打って変わって天候が良く、予定していた競技をすべて行うことができた。

今年のテーマは、「絆を一つに熱くなれ!輝け新翔体育祭!」をテーマに全校生徒総割りの5ブロックに分けて行われた。練習期間は約1週間と短い、今年の3年生は皆協力して練習し、各ブロックともまとまりがよかった。

結果は応援コンクールの部、ブロック総合ともに赤ブロックが優勝した。最後の校旗降納時には、今まで見ることもなかった校歌を熱唱しているブロックもあり、3年生の団結力の強さを改めて見る事ができた。



リレーの激闘

熊野ハレヤ節

「絆を一つに熱くなれ!輝け新翔体育祭!」

「勇気ある行動は心強い」 向井由利さん、土佐奈都紀さんに感謝状



大石明消防長(左)から感謝状を受け取る向井由利さん(右)と土佐奈都紀さん(中)

5日の放課後、1年4組の土佐奈都紀さんと1年5組の向井由利さんが本校応援室で、新宮市消防本部の大石明消防長から感謝状を受け取った。

土佐さんと向井さんは9月3日の下校途中、住宅の2階の窓の手すりから落ちていたタオルケットが燃えているのを発見した。2人は近くにあった通行人に声をかけ、庭にあった水道のホースで消火活動を行った。

2人は「火が広がりそうで危ないと思った。大事に至らず良かった。みんなに喜んでくれたら感謝状ももらえて良かった」と話していた。

大石消防長は「火災は一瞬で財産や思い出、さらには人間の命も奪う。2人の勇気ある行動は心強い」と感謝した。

卓球部 クラブ紹介



新人戦に向けて練習に取り組む卓球部の生徒

卓球部です。我々は現在男子部員3人、女子部員7人の計10人で活動しています。人数は少ないですが、部員全員の卓球に対する意識は高く、日々向上の精神をもち練習に励んでいます。

練習時間は、平日は2時間半、週末は平均5時間。大会も間近に迫り、練習もかなりヒートアップしてしまっています。なんと一つでも多く勝ちたいと願っています。

本校の卓球部は新宮商業高校時代にはインターハイ出場も果たしたことがある伝統あるクラブ。我々もそのような素晴らしい先輩方に少しでも近づきたいと思っています。本校を卒業された卓球部の先輩方、またご指導よろしくお願いたします。

校内の障害者用設備を調査 社会福祉基礎選択生6人



身体に障害をもつ生徒が学校で楽しく過ごすためには

福祉科目の社会福祉基礎選択生、2年生6人が、本校に設置されているバリアフリーや障害者用トイレ、点字ブロックなど、障害のある人が本校で楽しく学校生活を送るためにはどうすればいいのかについて調査した。

また事前に、車イスを使って校舎内を自走する体験もした。調査した生徒はスロープが付いている

本校所蔵の川原家を展示 三重県立熊野古道センター



本校所蔵の川原家を三重県立熊野古道センターに展示



川原家の組み立て順序

本校工業科が所蔵する川原家(かわらや)が、尾鷲市の三重県立熊野古道センターの企画展「筏師の道」に展示されている(同センター、和歌山県北山村共催)。会期中は無休で、12月19日(日)まで開催されている。午前9時~午後5時、入場無料。

川原家とは、くぎを一本も使わない簡易家屋であり、簡単に建築、分解ができることから、かつていかだ流しが盛んだったころ、洪水で水没する熊野川の河原にも建てられ、「川原町」として繁栄していた。

同センターでは現在「企画展筏師の道」が開催されており、かつて熊野川の河原に建てられ、いかだ師や水夫たちでにぎわった「川原町」の再現資料として貸し出すことになった。先月、本校建設技術系列の生徒による組み立て実習が実施され、その様子も展示されている。

先生の紹介 川口敦志先生(26)



ここには、4月から新翔高校で働き始めていた川口敦志です。3月の末に海南市から引っ越ししてきました。引っ越す際に、車で移動しているとき、いろいろな風景を美しく感じました。熊野川や熊野灘の美しい水面(みなも)に感動したことを覚えています。

本校では、今までのままさまざまな行事や授業で生徒の皆さんと関わらせていただいております。あいさつをきちんとしてくださるよう、行事において学年やクラスの垣根を越えて盛り上げられるような活動したいことも多々あります。

現在は文化祭に向けて、多くの生徒が知恵を出し合い頑張っている風景を見掛けます。物事に集中して取り組む皆さんの姿勢に、私もまた元気づけられているところでもあります。

さて、高校三年間は長いようで短い期間です。この期間にどれだけ自分に向き合えるか、力を重ねていけるかが、その後の人生に大きく影響します。また、そこで出会った友人も生涯の財産となることではないでしょうか。高校生活でたくさんの方と出会ってほしいと思います。

まだまだ未熟ではありますが、皆さんの自己実現をお手伝いできるよう頑張りますので、よろしくお願いたします。